



令和元年(2019年)6月17日  
No.1  
豊中市立北条小学校



2020年度から新学習指導要領が全面実施となります。今回の新学習指導要領は、戦後最大の改訂と言われています。本校においても、新学習指導要領へのスムーズな移行を図るために、特別の教科道徳や外国語活動・プログラミング教育をはじめ、新教育課程に向けた研究を推進し、計画的に指導を行っています。

今の子どもたちは、スマホやAIといった大きな技術革新の真っ只中にあり、「多くの仕事がロボットにとって代わられる。」「ロボットの知能が人間の知能を超える時がもうすぐ来る。」などと危惧する声も聞かれます。2024年には、本格的な大学入試改革が行われ、論述式が増えパソコンを使った試験が導入される予定です。

そんな21世紀の未来を生きぬくことができる子どもたちを育てるために、学校や家庭で何ができるのか？

本校でも、基礎基本を大切にしながら、応用力や活用力などを育てるために、さまざまな取り組みをしています。

この「北条っ子学び通信」では、日ごろの授業や現代の教育課題などを通して、北条っ子の力をつけるために何ができるか考えていきたいと思っています。

学習の様子や成果、課題などを保護者のみなさまにもお伝えしますので、家庭と学校が連携しながら、子どもにとってより効果的な教育が行われるようご協力よろしくお願いいたします！

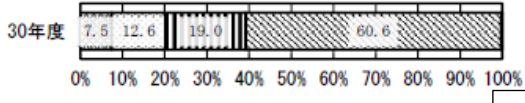
☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

2018年度全国学力調査質問紙調査によると、新聞を読むことと学力に相関関係があると言われています。(グラフ1)例えば、国語Aでは、「ほぼ毎日読んでい」と答えた児童の平均が78.8点、「ほとんど、または、全く読まない」と答えた児童の平均が68.4点となっています。すべての教科で、ほとんど読まない子とよく読む子では、数%から10%くらいの差がついています。そして、本校の児童は全国や大阪を下回っていることが分かりました。(グラフ2)

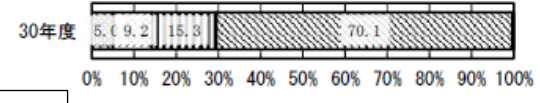


	質問番号	質問事項
小	25	新聞を読んでいますか
中	25	

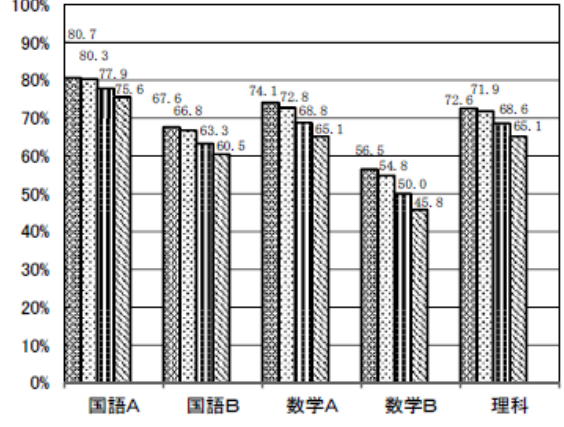
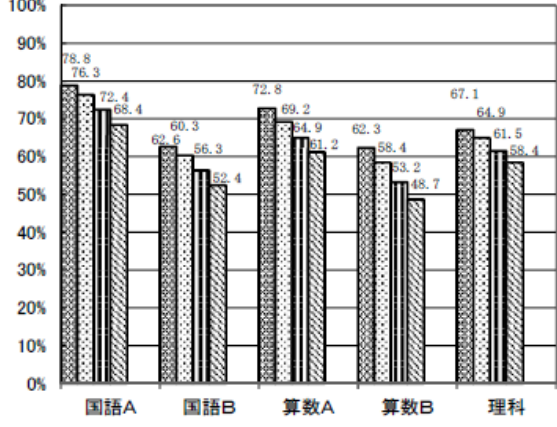
【小学校】



【中学校】



グラフ1



読書量についても、全国や大阪よりも少ないようです。新聞や読書の推進が学力向上の鍵になるかもしれません。

家庭教育プロデューサーの酒井勇介さんが、毎日3分でできる「朝パラ」というのを勧めています。

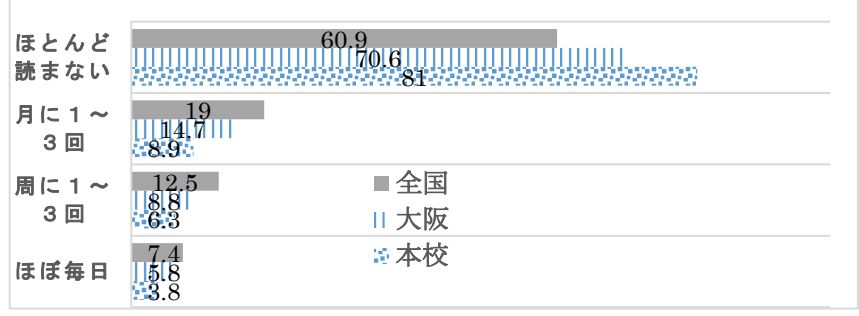
これは、記事の中で知っている漢字（中学生なら熟語）に赤ペンで○を付けるだけ。記事は子どもの興味に合わせて親が選んであげてください。新聞の漢字は学年が関係ないので、上の学年で習う漢字を背伸びして覚えることもできます。

実際に、酒井さんのお子さんが○付けを通じてその時の最新のニュースにも関心を持ち、5年生の時に「子ども手当っていくらもらえるの？もらったら私の銀行口座に貯金してね」と聞かれたこともあったそうです。

新聞は「読みもの」というイメージがありますが、紙面には文章以外にも写真や地図、数字などいろいろなものがあります。地球儀を近くにおいて国際面に出てきた国を確認したり、天気予報にある各地の最低・最高気温を足し算したり引き算したりすることで、地理や計算能力の基礎を固めることもできます。（インターネットサイト「酒井のつぶやき」から）

グラフ2

新聞を読んでいるか



<平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果から>

本校の正答率が、大阪府や全国に比べて、とても低かった問題です。  
式を立てたり、式の意味を考えるのが苦手なことが分かります。

問1) 答えが  $12 \div 0.8$  の式で求められる問題を、下の1から4までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

1. 1 mの重さが12 kgの鉄の棒があります。この鉄の棒0.8 mの重さは何 kgですか。
2. 0.8 Lで板を12 m<sup>2</sup>ぬることができるペンキがあります。このペンキ1 Lでは、板を何m<sup>2</sup>ぬることができますか。
3. 赤いテープの長さは12 cmです。白いテープの長さは、赤いテープの長さの0.8倍です。  
白いテープの長さは何cmですか。
4. 長さが12 mのリボンを0.8 mずつ切っていくきます。0.8 mのリボンは何本できますか。

問2) ㊦と㊧の2つのシートがあります。ウとエのシートの面積は、ちがいます。



次の表は、シートの上にすわっている人数とシートの面積を表しています。  
どちらのシートのほうがこんでいるかを調べるために、下の計算をしました。

すわっている人数とシートの面積

	人数 (人)	面積 (m <sup>2</sup> )
㊦	16	8
㊧	9	5

㊦  $16 \div 8 = 2$

㊧  $9 \div 5 = 1.8$

上の計算からどのようなことがわかりますか。下の

1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1. 1 m<sup>2</sup>あたりの人数は2人と1.8人なので、㊦のほうがこんでいる。
2. 1 m<sup>2</sup>あたりの人数は2人と1.8人なので、㊧のほうがこんでいる。
3. 1人あたりの面積は2 m<sup>2</sup>と1.8 m<sup>2</sup>なので、㊦のほうがこんでいる。
4. 1人あたりの面積は2 m<sup>2</sup>と1.8 m<sup>2</sup>なので、㊧のほうがこんでいる。

☆これらの問題は、文章を正確に読み取り、それを絵や図に表す力が必要となります。  
または、簡単な数字に直して考えてみると簡単に式を求められることができます。

低学年の時から思考力を育てるために

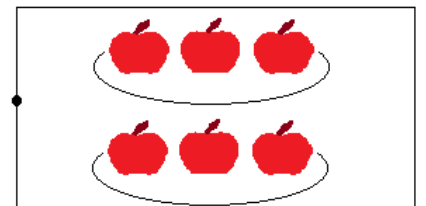
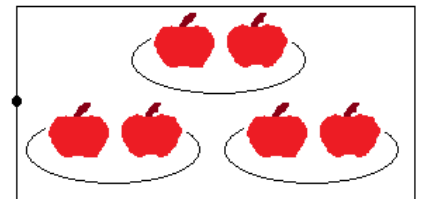
筑波大附属小学校で  
現在副校長をされている  
田中先生は、次のよ  
うに言われています。

「1・2・3年生の学習では、文章題が非常にたくさん出てきます。低学年のうち  
は、子どもたちは簡単だと勘違いして、得意になっているようですが、実は、高学年  
になって算数ができなくなる子の多くは、低学年から考えることをしていなかった  
子に多いのです。

実は、低学年時代は、考えなくても正解になってしまう問題が多いのです。たし算  
のときはたし算ばかり、ひき算のときはひき算ばかりです。」

「文章題は読んだら絵にさせます。絵にするとところが考えるところですよ。正しく  
絵が描けたら、文章を読み取っていることになります。読  
み取った絵を見て式をつくる場所は、教えていいと思  
います。「この場面を、このように式に書くんだよ」と教え  
ます。算数の式は外国語と一緒に、子どもにとっては新しい  
言葉ですから、教えなければいけません。」

「今までの算数の授業では、文章を読んだらすぐに式に  
していました。だから、つくられた式がちゃんと読み取っ  
てつくった式なのか、いい加減に書いてつくった式なのか、採点する教師にはわから  
なかったのです。でも、一度絵にさせれば、ちゃんと読み取っているかどうかわか  
ります。その絵を式にします。いずれは、この3つの関係がきちんとリンクして成り  
立つことを我々は求めていくわけですよ。この相互関係が成り立ったときのイメージ  
力が、今後、活用できる力になっていくだろうと思います。」(プレミアム講座ライブ  
田中博史の算数授業の作り方から)



時間がない時は、絵を描く活動をするにも限界があります。そこで、右側が絵、  
左側に文章が並んでいて、これを線で結ぶというようなプリントを使うということ  
もできます。また、絵と言っても○などを使った簡単な絵でもいいのです。中学年や  
高学年になると「絵」からテープ図や数直線図、面積図などの「図」に変わります。  
「図」を描くところが考えるところなのです。ご家庭でも学習する際、意識し  
ていただけるといいと思います。